

- 会議での各意見等
- 現状では、新型コロナウイルス感染収束の見通しがつかない。
- バスで移動することによる感染のリスクが大きい。
- 旅行に伴うクラスター感染の発生の危険も無いとは言えない。
- 感染対策を十分に行い実施することはできるとしても、参加者

今年度に予定しておりました研修バス旅行（10月下旬、石巻・仙台方面）について、新型コロナウイルスの感染拡大防止の対策として国、県、市等が行う各種事業が中止となっている現在の社会情勢の中で、計画通り実施してよいかどうか判断が難しい状況にあることから、9月25日に総務企画部会を開き、部会としてどのように対応していくべきかを協議しました。

今年度に予定しておりました研修バス旅行（10月下旬、石巻・仙台方面）について、新型コロナウイルスの感染拡大防止の対策として国、県、市等が行う各種事業が中止となっている現在の社会情勢の中で、計画通り実施してよいかどうか判断が難しい状況にあることから、9月25日に総務企画部会を開き、部会としてどのように対応していくべきかを協議しました。

年月日	曜	視察研修場所等	人数	会費(円)
令和01.11.02	土	八戸ブックセンター、蕪島、櫛引神社視察	72	3,000
平成30.10.26	金	平泉世界遺産(中尊寺、毛越寺、讃衡蔵) 視察	41	3,000
平成29.10.28	土	大船渡・陸前高田被災地復興視察研修	66	3,000
平成28.11.12	土	大槌・釜石被災地復興視察研修	80	3,000
平成27.10.24	土	男鹿水族館、なまはげ館、男鹿真山伝承館	41	2,500
平成26.10.25	土	葛巻町風力発電所、ワイン工場	44	2,000
平成25.10.26	土	奇跡の一本松、大船渡津波伝承館の旅	89	2,000
平成24.10.27	土	小岩井農場、松川渓谷、松川地熱発電所	71	2,000
平成23.11.04	金	平泉、一関北上川学習交流館他		
平成22.11.04	木	正法寺(水沢)、一関市東山交流センター他		
平成21.11.07	土	塩竈市場、塩竈神社、ビール工場見学		

研修バス旅行中止の経緯について

総務企画部会 部会長 駿河雅春

- 現状の感染拡大防止対策の中では、自粛したほうが良い。

最近は感染者が減少傾向にあるものの、今後、年末繁忙期を控え実施を引き延ばす訳にもいかないことから、研修バス旅行の意義と実施することに伴うリスクを考え、令和2年度に続き今年度も中止すべきと判断しました。

以上、会員の皆様にご報告いたしました。

- 実行する4割。中止する6割と考える。
- このほか、研修先を県内に変更して実施する等の意見が出されました。

会報こぶし

発行 花北地区
コミュニティ
協議会
編集 総務企画部会

花北地区の昔の写真を募集します

次の世代へ伝えていくため、花北地区内の風景・生活・行事の写真などを

募集写真

昭和50年頃までに撮影された花北地区内の風景・生活・行事の写真などを

応募方法

現像した写真を花北振興センター事務室へお持ちください。デジタル画像に変換後、後日返却いたします。

◆応募上の注意
①応募者本人またはご家族の所有物であり、著作権を完全に保有している写真に限ります。

②写真に人物が含まれる場合、その人物の肖像権に関する、協議会では一切責任を負いかねます。

③写真データの一部を加工して使用する場合があります。

④写真の使用時において、応募者氏名は表示しません。

⑤写真の取扱いには十分注意しますが、万一の事故による破損(写真の破れや汚れ)の責任は負いかねますのでご了承ください。

※収集した写真は、「会報こぶし」に掲載する予定です。



地区だより

たいせつな絆を絶やさずに

（令和3年度桜台地区子供会
レクレーションの取り組み）

桜台地区小学校PTA会長 畠山 克巳

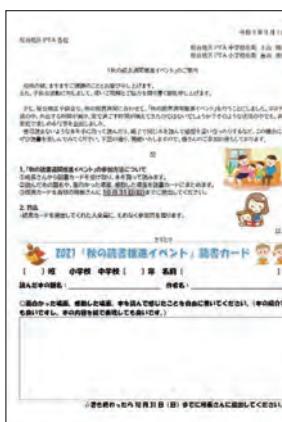
現在、コロナ禍であり、子供たちが様々な体験をする機会が減っている。子供は家と学校の往復だけが続いている、人とのつながりの場が少なくなっている。

そんな中、自治会長さんから子供たちや保護者たちが地域とのつながりを切らないようにしたい、子供会の班長さんからは保護者との連携がうまく取れないという話を伺いました。そこで子供たちが地域社会でこそやかに成長していく機会を少しでも作っていきたいと考えるようになりました。

地区PTA役員会の話合いでも知恵を出し合い、子供たちのためにできることを検討しました。

- ①密にならないように
- ②親子でコミュニケーションを深められるように
- ③子供たちが楽しめるように
- ④班長と保護者がつながっていくように
- ⑤自治会ともつながっていけるように
- ⑥秋の読書推進週間イベントをする

まずは、親子で本を購入しに行き、我が子とのコミュニケーションを



イベントのご案内



ンを深められるように図書券を配布しました。また、子供たちが購入した本の感想を親子で話し合つてもらえるように、感想を記入する欄を入れたチラシも作成し、一緒に配布しました。感想を記入して班長さんに提出してくれた子どもたちには参加賞をあげる予定です。子供会の行事に参加することは楽しいと実感し、コロナが落ち着いた後、積極的に子供会行事に参加してもらえることを願っています。

単なる図書券配布と捉える方もいるかもしれません、手から手へ配布することで、人とのつながりを継続し、後々にその絆を繋いでいくことができれば嬉しいです。

今後さらに自治会の方々とも交流していくことができれば嬉しいです。

参加してもらえた子供たちの健全な成長に尽力していこうと思います。

城跡での発掘調査は平成初めより始められ、特に平成4～6年の本丸西御門周辺の整備に伴う内容確認調査、また平成6年の三之丸市役所新館建設に伴う記録保存調査では中世～近世に及ぶ多くの遺構・遺物が確認されています。

平成28・29年度には二之丸南御蔵跡の内容確認調査が、平成30・令和元年度には本丸内容確認調査が行われました。

花巻城は、中世には鳥谷ヶ崎城と呼ばれ、当時花巻地方を支配していた稗貫氏の居城でした。近世南部氏の支配下になり花巻城へと移行になりました。

平成30・令和元年度の本丸内容確認調査で、本丸御殿の土台跡とみられる穴の内部に石が多く量に入っている場所や、集中した石が平面的な広がりを持つた御殿建物内部中庭などが確認されました。

また、現在芝生部分の整地層の下から黒色の地層が確認され、16世

紀代の灰釉皿（かいゆうざら）などが出土しています。これらの結果から、中世城館である稗貫氏の花巻城への移行に伴い、大規模な土木工事が行われた様です。

ただ、これまでの発掘調査から花巻城への中世城郭としての城本丸跡で11月上旬までの予定で発掘調査が行っています。今回発掘調査を担当されている花巻市総合文化財センターに問い合わせをし、HPに掲載されている情報を元に調査結果などを紹介します。

城跡での発掘調査は平成初めより始められ、特に平成4～6年の本丸西御門周辺の整備に伴う内容確認調査、また平成6年の三之丸市役所新館建設に伴う記録保存調査では中世～近世に及ぶ多くの遺構・遺物が確認されています。

平成28・29年度には二之丸南御蔵跡の内容確認調査が、平成30・令和元年度には本丸内容確認調査が行われました。

またこの度、公園下広場の芝生整備が完了し9月25日から解放されています。令和元年までは、5月に小舟渡夏祭りが開催されています。夏祭りには、PTA・自治会員による、焼きそば・焼肉・ほたて焼き・かき氷・飲み物・縁日コーナーが設けられ、例年400名程が参加する盛況ぶりでした。

コロナ禍が終息し、あの賑わいが戻ればと思う今日この頃です。



芝生整備された公園下広場



平成30年度発掘調査の様子
(東から)

近年、テレビや新聞、雑誌などに登場するビジネスマンの多くがSDGs（エスディージーズ）バッヂを付けている姿を目しますが、世界経済フォーラムの調査によると日本における認知度は諸外国と比べると余り高くないとのこと。そこで前回、7月15日発行の「こぶし30号」で生活部会長の中園教一さんから「SDGs（持続可能な開発目標）」について概要紹介がありました。今日的に重要なテーマであることから、今回さらに詳しく紹介していただきます。

SDGsって何？　コミュニティ活動と日常生活の中から考える

コロナ感染も落ち着きつつあるものの、以前の日常生活に戻るには、まだまだ時間が必要かと思いますが、いかがお過ごしでしょうか。さて、前回発行の「会報こぶし 第30号」の新役員紹介の中で、生活環境部会活動に関連し、SDGsについて少し触れたところ、SDGsについてもう少し詳しく知りたいという声があり、前回に引き続き、紹介したいと思います。

先ず、SDGsとは(Sustainable Development Goals の略で、持続可能な開発目標と訳す)、2015年9月に経済発展だけを取り組むのではなく、貧困・不平等・格差、気候変動、環境保全、生活・暮らしの向上、最近の課題となっているジェンダー平等実現など、これらを取り巻く環境や社会の抱える問題に取り組み、それらの根本的な解決により、持続可能な社会を作ることを目標に、国連で世界各国の政府によって採択されたもので、2030年目標達成を目指しています。

国連で決めたものと言うと、国や自治体、企業が取り組むものと思いがちですが、実は私達一人ひとり個人もSDGsに定められた目標達成に向けた課題意識と行動が求められていると言うことです。

そこでSDGsで掲げられた17の具体的な目標の中で、私達の日常生活・暮らし、コミュニティ活動との係わりについて、一部具体例を上げご紹介したいと思います。

前回にも少し触ましたが、廃棄物の削減や資源のリサイクルと言った取り組みは目標12の「つくる責任 つかう責任」に該当するのですが、その中に「すべての国が、一人当たりの食品廃棄量を全体で半分に減らすこと」が掲げられています。私達の家庭で「安かったのでつい沢山買った、冷蔵庫の奥に仕舞い込んだため気付くのが遅れ、食べ物が期限切れになり廃棄」といったことはありませんでしょうか。

東京オリンピック選手村での食事の大量廃棄、いったい日本国内で年間にどれくらい食品が廃棄されているかと言うと、国民一人当たり年間約47kg(平成30年農林水産省統計データより抜粋) 廃棄しているとのことです。これは年間一人当たりの米の消費量約54kgに近い量に相当します。食品の無駄・口

星が丘1丁目 中園 教一

スをなくすこと、これもSDGs目標の一つです。

次に、私達が取り組んでいる地域のコミュニティ活動の一つでもある「街づくりへの参加の確保や、災害に強い街や地域をつくること」は目標11の「住み続けられるまちづくりを」に該当します。

記憶に新しい東日本大震災や地球温暖化の影響によると思われる気候変動による豪雨災害などに対する備えの強化など、災害に強く、人の命を大切にし、安心・安全に暮せる地域づくりも重要な取り組みです。

私が住む星が丘一丁目を流れる枇杷沢川、新緑と秋の紅葉が美しい絶景スポットで、町内住民にとって憩いの場でもありますが、数年前まではシギが生い茂り景観が損なわれ、そこに住む水棲生物にも影響を与えかねない状況でした。花巻市に依頼し川中の大量の土砂とシギの除去を実施して頂きました。

以降、町内と隣の星が丘二丁目の一部有志による年数回の奉仕活動(川中の膝丈程度の草の除去)に

より、写真の様に景観の維持・保全が図られています。これらの活動も目標11と目標15「陸の豊かさを守ろう」の実現に向けた取り組みの一つかと思います。



このように私達は、実際には日々の生活、活動の中でSDGsの目標実現に向けた取り組みを推進している訳で、これをいかに認識し、意識的に行動するかが目標達成にかかっていると言っても過言ではないかと思います。

そうすることで、素晴らしい地域の財産を次世代に引き継ぎ、将来に渡り、明るく活気ある地域が実現出来るのではないかと思います。目標の全てを取り上げることは物理的に難しいですが、参考にして頂ければ幸いに存じます。

最後に、こぶしに寄稿するに当たり、私自身もSDGsを深く掘り下げ考えさせられる良い機会となつたことに深く感謝申し上げます。

〈参考資料〉

去る、9月25日付け岩手日報に掲載されたSDGs（※別記：2030年までに達成すべき17の目標）に関する記事によると、推進に前向きな県内企業（調査対象190社、回答96社、回収率50.5%）の割合は39.6%で、前年からほぼ倍増したと帝国データバンク調査結果が紹介され、社会貢献や企業イメージ向上につながる課題である指摘している。具体的には、SDGsについて「意味や重要性を理解し取り組んでいる」が16.7%、「意味や重要性を理解し取り組みたいと思う」が22.9%。一方、「言葉は知っていて意味や重要性を理解できるが取り組んでいない」が35.4%、「言葉は知っているが意味や重要性を理解できない」が11.5%、「言葉も知らない」は3.1%、「分からない」が10.4%と認知度は少しづつ高まっているが、取り組みに消極的なことや理解が進んでいないとのこと。

県内企業が17の目標のうち、力を入れている項目別（複数回答）では「働きがいも経済成長も」が37.5%、「つくる責任つかう責任」が29.2%、「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」28.1%、「住み続けられるまちづくりを」24.0%。SDGsへの取り組みを前向きと回答した企業の割合は、大企業が47.0%、小規模企業が26.1%であったと紹介されている。花北地区在住の皆様、企業経営されている方々もSDGsについて次のページの資料を参考にしながら一緒に考え方理解を深め行動につなげましょう。

持続可能な開発目標 (SDGs)

最終更新日2021年8月（資料出典:総務省HPより）

持続可能な開発目標 (SDGs) とは、2001年に策定された**ミレニアム開発目標 (MDGs)** の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。

上記国連サミットの成果文書において、SDGsの進捗を測定するための指標は**国連統計委員会**で検討することされました。そして、国連統計委員会や関連会合（「SDG指標に関する機関間専門家グループ (IAEG-SDGs) 会合」等）での議論を経て、2017年7月の国連総会において、全244（重複を除くと232）のグローバル指標からなる指標枠組みが承認されました。その後、2020年3月の国連統計委員会において、この指標枠組の包括的な見直しが行われ、現在は全247（重複を除くと231）のグローバル指標（以下の「指標仮訳」をご参照ください。）が承認されています。

政策統括官（統計制度担当）は、上記を踏まえ、関係府省の協力の下で我が国の指標の取りまとめを行っています（[JAPAN SDGs Action Platform](#)をご参照ください。）

	指標仮訳 SDGsを表現するマーク	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 	目標：Goal 9 強靭（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る
1 貧困をなくそう 	目標：Goal 1 あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる	10 人や国の不平等をなくそう 	目標：Goal 10 各国内及び各国間の不平等を是正する
2 飢餓をゼロに 	目標：Goal 2 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する	11 住み続けられるまちづくりを 	目標：Goal 11 包摂的で安全かつ強靭（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する
3 すべての人に健康と福祉を 	目標：Goal 3 あらゆる年齢の全ての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する	12 つくる責任つかう責任 	目標：Goal 12 持続可能な生産消費形態を確保する
4 質の高い教育をみんなに 	目標：Goal 4 全ての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する	13 気候変動に具体的な対策を 	目標：Goal 13 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる
5 ジェンダー平等を実現しよう 	目標：Goal 5 ジェンダー平等を達成し、全ての女性及び女児の能力強化を行う	14 海の豊かさを守ろう 	目標：Goal 14 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
6 安全な水とトイレを世界中に 	目標：Goal 6 全ての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する	15 陸の豊かさも守ろう 	目標：Goal 15 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、並びに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 	目標：Goal 7 全ての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する	16 平和と公正をすべての人に 	目標：Goal 16 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、全ての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する
8 働きがいも経済成長も 	目標：Goal 8 包摂的かつ持続可能な経済成長及び全ての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する	17 パートナーシップで目標を達成しよう 	目標：Goal 17 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

◆編集後記

コロナ禍で、何かと活動が制約される状況ですが、前回に続いてSDGsについての内容や地区の活動などを紹介することができます。ご寄稿していただいた皆様に深く感謝申し上げます。【編集長 藤沢 茂】